

第 57 回産業統計部会の審議において整理、報告等が求められた事項に対する回答
(農業経営統計調査)

1 標本設計の変更

(部会における意見等)

サンプルサイズを決定する場合は過去の調査結果を基に設計し、また、精度は実際の調査結果により決まる。

本調査では、一部の営農類型について、目標精度を設定せず、サンプルサイズを設定しているが、過去の調査結果と実際の調査結果との相関関係が高い営農類型については過去の調査結果を基に目標精度を設定してサンプルサイズを決定し、相関関係が低い営農類型については過去の調査結果を基にサンプルサイズを決めてもあまり効果がないため、目標精度を設定せずにサンプルサイズを決定しているという整理もあるのではないか。

実際に調査結果に基づき試算・検証の上、このような整理が可能か確認してほしい。

〈回答〉

- 1 本調査における標本設計は、営農類型ごとに目標精度を設定し、その精度を確保するために必要なサンプルサイズを算出することを基本としています。しかし、行政上の利活用の観点からの重要性がそれほど高くなく、目標精度に基づくサンプルサイズによって調査を行うほどの調査精度が求められていない営農類型については、目標精度を設定せず最低必要なサンプルサイズのみを定めています。

このサンプルサイズについては、統計として公表するために一定程度の標本を確保する観点から母集団の大きさ等を勘案し設定しているもので、目標精度に基づく標本設計に代替しうる方法ではなく、あくまでも例外的な取扱いと考えております。

なお、この営農類型については、抽出した標本データを用いて推定した実績精度の水準によって調査結果の妥当性を検証しております。

- 2 一方、目標精度を設定している営農類型については、過年次の実績データと目標精度からサンプルサイズを算出していますが、抽出した標本データを用いて推定した標準誤差率（実績精度）を目標精度と比較することによって過去のデータとの相関を検証すると、実績精度は設計時の目標精度におおむね見合った水準となっており、過年次データと実績データとの一定の相関は確保されているものと考えております。このため、基本的には目標精度と過年次データから標本数を算定する方法によって標本設計を行っていきたいと考えております。

2 調査客体概況-農産物生産費統計関連共通項目②（調査作物の委託状況別面積）

（部会における意見等）

調査作物の委託状況別面積について、委託の相手を「個人」「団体」と区分して把握することとしているが、生産コスト測定のために把握するのならば、区分する必要性はないものとする。調査結果の利活用の観点から、区分せずに把握する余地がないのか、検討してほしい。

〈回答〉

調査作物の委託状況別面積については、個別経営体における農作業の外部委託が進展する過程で、専門に請け負う受託組織の増加もあり、委託の相手を性格（「個人」、「団体」）別に把握してきたところです。

当該調査事項は、調査結果（賃借料等）の妥当性の確認や政策部局からの分析依頼に備えて把握しておりましたが、今回のご指摘を踏まえ改めて利活用を確認したところ、政策部局における具体的な利活用はないことから、調査負担軽減の観点から、委託の相手を区分せずに把握することとします。

当該審議を受けた変更案については別添1-1、変更後の調査票については別添1-2をご覧ください。

3 調査客体概況 - 米生産費統計関連項目①（「ほ場間の距離」及び「団地への平均距離」）

（部会における意見等）

「ほ場間の距離」について、調査対象経営体における最も離れているほ場間の距離を把握することとしているが、小規模でかつ例外的に離れているほ場がある場合でも、同様に距離を算出することは、経営体における実際の移動コストを反映した分析ができないのではないかと懸念されている。

また、市町村や都道府県の区域を越えた農地の分散状況の把握についても検討してほしい。

〈回答〉

農地の集積や分散の状況を把握するための指標として、これまで「団地数」及び「区画規模別のほ場枚数」を把握してきたところですが、更に詳細に農地の集積・分散が生産コストへ及ぼす影響（ほ場への移動コストや作業効率性）等の分析が可能となるよう、今般「ほ場間の距離」及び「団地への平均距離」を追加したところです。

「ほ場間の距離」及び「団地への平均距離」については、調査対象経営体が稲の生育期間を通じ頻繁に行き来しており、自動車の距離計（メーター）により正確な把握が可能であり、かつ、調査対象経営体への負担の増加も過剰なものとはならないと考えています。更に、聞き取りに際して、調査対象経営体が団地やほ場までの距離を把握していない場合等は、作物統計調査（耕地面積調査）で導入している衛星画像（航空写真）で距離を計測する等、補完的に把握する方法も考えています。

なお、例外的に離れているほ場の有無等、ほ場の配置状態については、最も離れている「ほ場間の距離」と住居から団地までの距離の平均である「団地への平均距離」の関係から一定の把握が可能であると考えており、経営体における実際の移動コストを反映した分析が可能であるものと考えています。

また、ほ場の規模や配置の状態に応じて距離の取扱いを区別して把握することや、県・市町村の区域を越えたほ場の有無等の調査事項を追加することは調査の難易度を高め、調査対象経営体から正確な報告が得られないおそれがあることや、調査負担を増加させることから現行のままとさせて頂きます。

4 調査客体概況 - 米生産費統計関連項目② (米の生産調整実施状況)

(部会における意見等)

米の生産調整実施状況について、なぜ「飼料用米作付面積」に限定して把握することとしているのか。農機具等の有効活用による米の生産コスト低減に資するため把握するのならば、今回、調査事項から削除する「水稻裏作作付面積」も引き続き把握した方が良いのではないか。

また、経営体においては、米の生産コスト削減のために、飼料用米だけでなく、米粉用米、輸出用米及び加工用米等も作付けしており、今後、これらの用途の米についても併せて把握する必要はないか。

〈回答〉

「生産調整実施状況」及び「水稻裏作作付面積」については、利活用状況及び調査負担の観点から削除することとしたところですが、「飼料用米作付面積」については、飼料用米の生産・利用拡大が政策的に進められていることに加えて、飼料用米と食用米の栽培方法が概ね同様であるなど、麦類・大豆等の作物と比べて食用米との関係性が高いため、限定的に把握を継続するものです。

なお、米粉用米、加工用米及び輸出用米については、食用に供されるものであり、米生産費統計の調査対象としています。

5 調査客体概況 - 麦類・大豆・畑作物生産費統計関連項目

(部会における意見等)

営農類型別経営統計では、生産調整実施状況(自作地・借入地別実施面積)を把握していない中、耕地の有効利用度を測るに当たって、本調査事項を削除することによる支障はないか。

〈回答〉

営農類型別経営統計では、耕地の利用状況について、田畑別・自作地借入地別耕地面積、田畑別延べ作付面積、作物別作付面積(土地利用型作物では田畑別作付面積)及び生産調整田面積を把握しており、これらの結果から耕地の利用状況(利用度)を測ることが可能です。

なお、生産調整実施状況の自作地・借入地別実施面積については、農業経営という観点で見れば、生産手段としての耕地の調達状況をみる上では重要な指標となり得ますが、生産調整を集团的に実施するブロックローテーション*が地域で進められるなど、その作付状況を自作地・借入地別にみることにについての重要度は低いことに加え、これまで利活用の実績がなく、耕地の利用度を測るに当たって生産調整田面積計があれば対応可能であるため、本調査事項を削除することによる支障はないものと考えています。

* ブロックローテーションとは、地域内の水田を数ブロックに区分し、そのブロックごとに集团的に米、麦、大豆等を作付けし、これを、1年ごとに他ブロックに移動し、数年間で地域内のすべてのブロックを一巡する形態をいいます。

6 調査客体概況 - 牛乳生産費統計関連項目及び肥育豚生産費統計関連項目

(部会における意見等)

牛乳及び肥育豚に係る生産費統計関連項目について、政策部局における具体的な利活用や組替集計のニーズがないとして削除することとしているが、畜産の専門家・研究者や研究機関においても削除して特段の支障がないか確認してほしい。

〈回答〉

農林水産省技術会議事務局を通じて、畜産の専門家・研究者や研究機関において当該項目の利活用があるか可能な範囲で把握を行いました。過去に利用された実績はありませんでした。

政策部局においても具体的な利活用がないことから、利用者ニーズの観点において当該項目を削除することに特段の支障はないと考えています。

青字：今般の申請に際し、見直しを予定していた箇所
 赤字：第57回産業統計部会の指摘を踏まえて変更する箇所

変更案	諮問案	現行																																																						
<p>10 調査客体概況 (2) - 1 農産物生産費統計関連共通項目 イ 調査作物の委託状況別面積 (米、麦類、大豆、なたね、そば生産費調査客体のみ使用)</p> <table border="1" data-bbox="531 1823 746 2159"> <thead> <tr> <th>作業名 (具体的に記入)</th> <th>面積</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table> <p>記入注意： 1 育苗、乾燥・調製など数量単位で精算される場合は、その見積もり面積を記入してください。 2 耕うん・整地、防除など同一ほ場を数回にわたって委託した場合は、その実面積を記入してください。</p>	作業名 (具体的に記入)	面積		〃							<p>10 調査客体概況 (2) - 1 農産物生産費統計関連共通項目 イ 調査作物の委託状況別面積 (米、麦類、大豆、なたね、そば生産費調査客体のみ使用)</p> <table border="1" data-bbox="531 1144 788 1453"> <thead> <tr> <th>委託の手 相</th> <th>委託 (請け負わせ) 作業名 (具体的に記入)</th> <th>面積</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>個人</td> <td> </td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table> <p>記入注意： 1 委託について、個別相対により委託したものは「個人」欄に、農家集団 (農作業受託組織など)、農協、公共団体などに委託したものは「団体」欄に記入してください。 2 育苗、乾燥・調製など数量単位で精算される場合は、その見積もり面積を記入してください。 3 耕うん・整地、防除など同一ほ場を数回にわたって委託した場合は、その実面積を記入してください。</p>	委託の手 相	委託 (請け負わせ) 作業名 (具体的に記入)	面積	個人		〃										<p>10 調査客体概況 (2) - 1 農産物生産費統計関連共通項目 イ 調査作物の受委託状況別面積 (米、麦類、大豆、なたね、そば生産費調査客体のみ使用)</p> <table border="1" data-bbox="531 188 780 730"> <thead> <tr> <th rowspan="2">受委託の手 相</th> <th colspan="2">委託 (請け負わせ)</th> <th colspan="2">受託 (請け負い)</th> </tr> <tr> <th>作業名 (具体的に記入)</th> <th>面積</th> <th>作業名 (具体的に記入)</th> <th>面積</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>個人</td> <td> </td> <td>〃</td> <td> </td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table> <p>記入注意： 1 委託 (受託) について、個別相対により委託 (受託) したものは「個人」欄に、農家集団 (農作業受託組織など)、農協、公共団体などに委託 (受託) したものは「団体」欄に記入してください。 2 育苗、乾燥・調製など数量単位で精算される場合は、その見積もり面積を記入してください。 3 耕うん・整地、防除など同一ほ場を数回にわたって委託 (または受託) した場合は、その実面積を記入してください。 4 全作業を受託する場合、「作業名」欄に全作業と記入してください。</p>	受委託の手 相	委託 (請け負わせ)		受託 (請け負い)		作業名 (具体的に記入)	面積	作業名 (具体的に記入)	面積	個人		〃		〃															
作業名 (具体的に記入)	面積																																																							
	〃																																																							
委託の手 相	委託 (請け負わせ) 作業名 (具体的に記入)	面積																																																						
個人		〃																																																						
受委託の手 相	委託 (請け負わせ)		受託 (請け負い)																																																					
	作業名 (具体的に記入)	面積	作業名 (具体的に記入)	面積																																																				
個人		〃		〃																																																				

経営台帳（個別経営体用）「10 調査客體概況」部分（案）

10 調査客體概況（つづき）

当頁の表には、お宅の昨年の生産状況などが記入してありますので、参考にさせていただきます。記入してください。

(2)ー1 農産物生産費統計関連共通項目

ア 主要指標及び作柄

認定農業者制度の認定を受けている人はいですか。（該当を○で囲む）	い	る	い	な	い	な	い
お宅では農業所得と農外所得のどちらが多いですか。（該当を○で囲む）	農業所得		農外所得				
10a 当たり平年収量（単収を記入する）	kg						

10a 当たり平年収量とは
過去5か年の10a当たり収量のうち最高、最低を除く3か年の平均収量を記入してください。

イ 調査作物の委託状況別面積

（米、麦類、大豆、なたね、そば生産費調査客體のみ使用）

作業名 （具体的に記入）	面積
	a

記入注意：

- 1 育苗、乾燥・調製など数量単位で精算される場合は、その見種もり面積を記入してください。
- 2 耕うん・整地、防除など同一ほ場を数回にわたって委託した場合は、その実面積を記入してください。

ウ 農業就業者等

	男	女
農業就業者	人	人
農業専従者		
農業年雇		

農業就業者、農業専従者とは

「農業就業者」：年間の農業従事日数が60日以上の者
「農業専従者」：年間の農業従事日数が150日以上の者

記入注意：

この表は、営農類型別統計と共用している調査客體については作成しないでください。

(2)ー2 米生産費統計関連項目

ア 田の概況

田の団地数	団地
区画整理面積割合	%

工 調査作物の品種別作付面積

作付けた作物の品種名	調査作付面積
	a

ウ 飼料用米作付状況

飼料用米作付面積	a
----------	---

イ ほ場枚数及び面積等

区画規模	ほ場枚数
a	枚
ほ場間の距離	km
団地への平均距離	km

エ 「移植」・「直まき」別作付面積

移植	作付面積
直まき	a

記入注意：

- 1 区画規模別のほ場枚数を記入してください。
- 2 区画規模は「30a」など具体的に記入してください。